

再評価調査

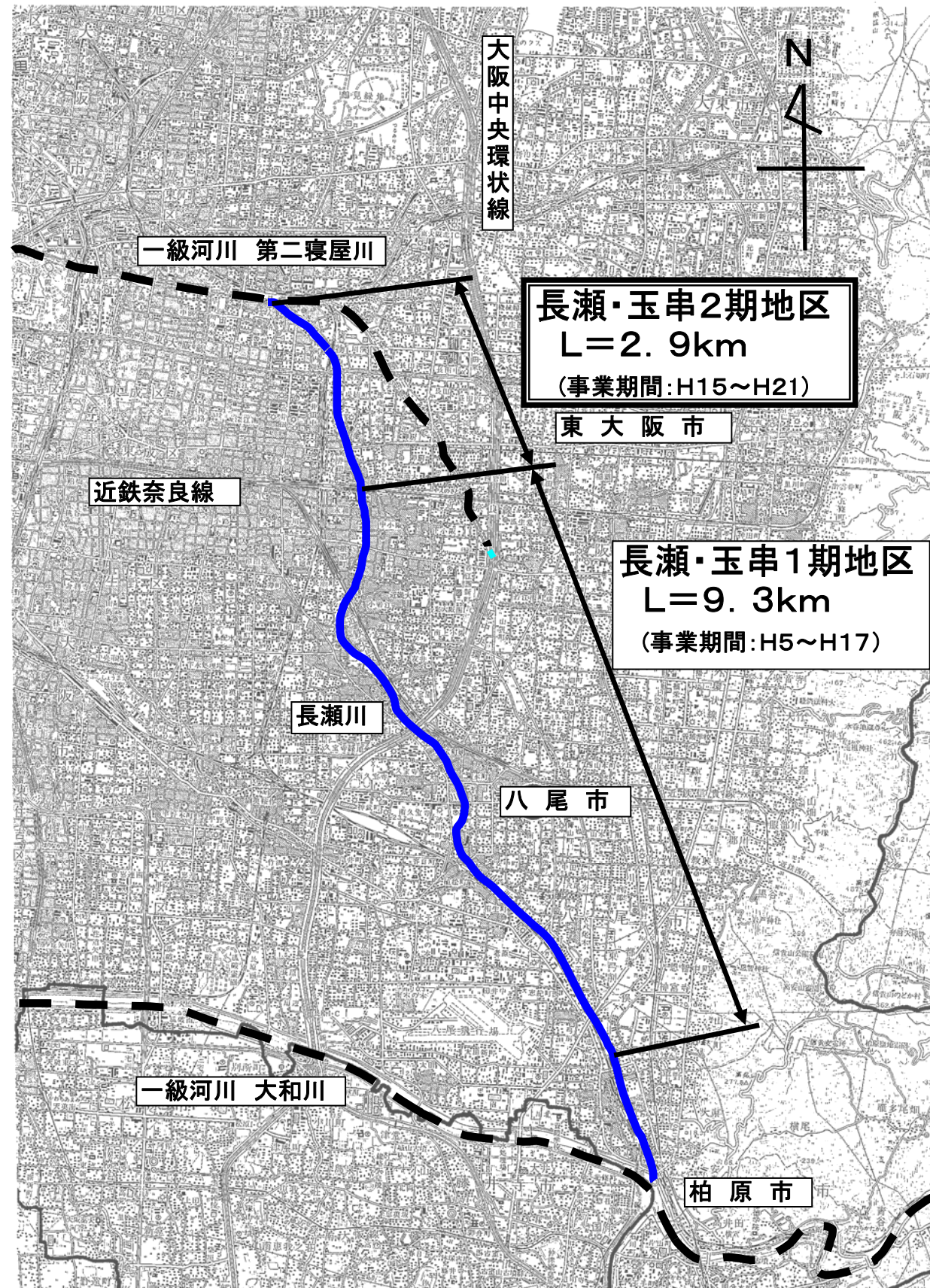
事業名	いきいき水路モデル事業 長瀬・玉串2期地区			
担当部署	環境農林水産部農政室整備課 農空間整備グループ(連絡先 06-6944-6751)			
事業箇所	東大阪市森河内西～小阪			
再評価理由	事業採択後5年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	長瀬川は八尾市、東大阪市の農地 192ha のかんがいのために重要な用排水路である。水路の維持管理については土地改良区を中心に行ってきたが、施設の老朽化が進んでおり、護岸崩壊等の危険性が高い。また、急速な都市化により水質汚濁が進んでいるため、悪臭、ユスリカの発生など、地域環境へも悪影響を及ぼしている。 したがって、護岸崩壊や溢水による被害の防止及び用排水分離による地域環境改善を目的に水路改修及び利活用施設の整備を行うものである。		
	内容	用排水路改修工 L = 2,930m 利活用保全施設工(遊歩道等) L = 2,100m		
	事業費	全体事業費：約8.0億円(約9.5億円)      うち投資済事業費：約5.4億円 用排水路改修費：約5.8億円 [負担割合：国 50%、府 30%、東大阪市 20%] 利活用保全施設費：約2.2億円 [負担割合：国 50%、府 25%、東大阪市 25%] (内訳) 調査費約0.5億円(約0.6億円)      (内訳) 調査費約0.5億円 工事費約7.5億円(約8.9億円)      工事費約4.9億円 ( )内の数値は計画時点のもの		
		【計画時点の事業費との変動理由】 コスト縮減、補償費の減及び落札差金による。		
	維持管理費	土地改良区及び東大阪市の維持管理を行うため、事業主体の大阪府による維持管理費は発生しない。		
	上位計画	・大阪府新農林水産振興ビジョン(H14.3) ・大阪府農空間整備基本方針(H14.7) ・おおさか農空間づくりアクションプラン(H17.3)		
	関連事業	寝屋川流域下水道竜華水環境保全センター送泥管布設事業		
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	現時点での状況	分析 【完成予定の変更理由】
		事業採択年度 H15年度 事業着手年度 H15年度 完成予定年度 H19年度	事業採択年度 H15年度 事業着手年度 H15年度 完成予定年度 H21年度	・計画時に想定していた年度事業費が確保できず2年延長した。
	進捗状況		(平成19年度末現在) 用地 工事 65%	
	途中段階の整備効果発現状況	整備完了区間は逐次引き渡しを行い、供用開始する。	平成19年度末時点で1.9kmを供用済。	・逐次供用について計画どおり。
	事業進捗に関する課題	特になし		

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	現時点での状況	分析
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溢水被害の未然防止及び水質改善による水辺環境の向上を図るため、水路改修を行う。</li> <li>・ 被害想定区域 437.68ha</li> <li>・ 浸水想定戸数 10,586戸</li> <li>・ 想定農地被害面積 19.82ha</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溢水被害の未然防止及び水質改善による水辺環境の向上を図るため、水路改修を行う。</li> <li>・ 被害想定区域 437.68ha</li> <li>・ 浸水想定戸数 10,586戸</li> <li>・ 想定農地被害面積 19.82ha</li> </ul>	・当初計画どおり
地元等の協力体制		事業採択前から地元自治会等により「長瀬川下流域住民懇談会」を構成し、協力体制を敷いている	「長瀬川下流域住民懇談会」を通じて、事業内容の協議、工事の説明や協力を行っている	・当初計画どおり

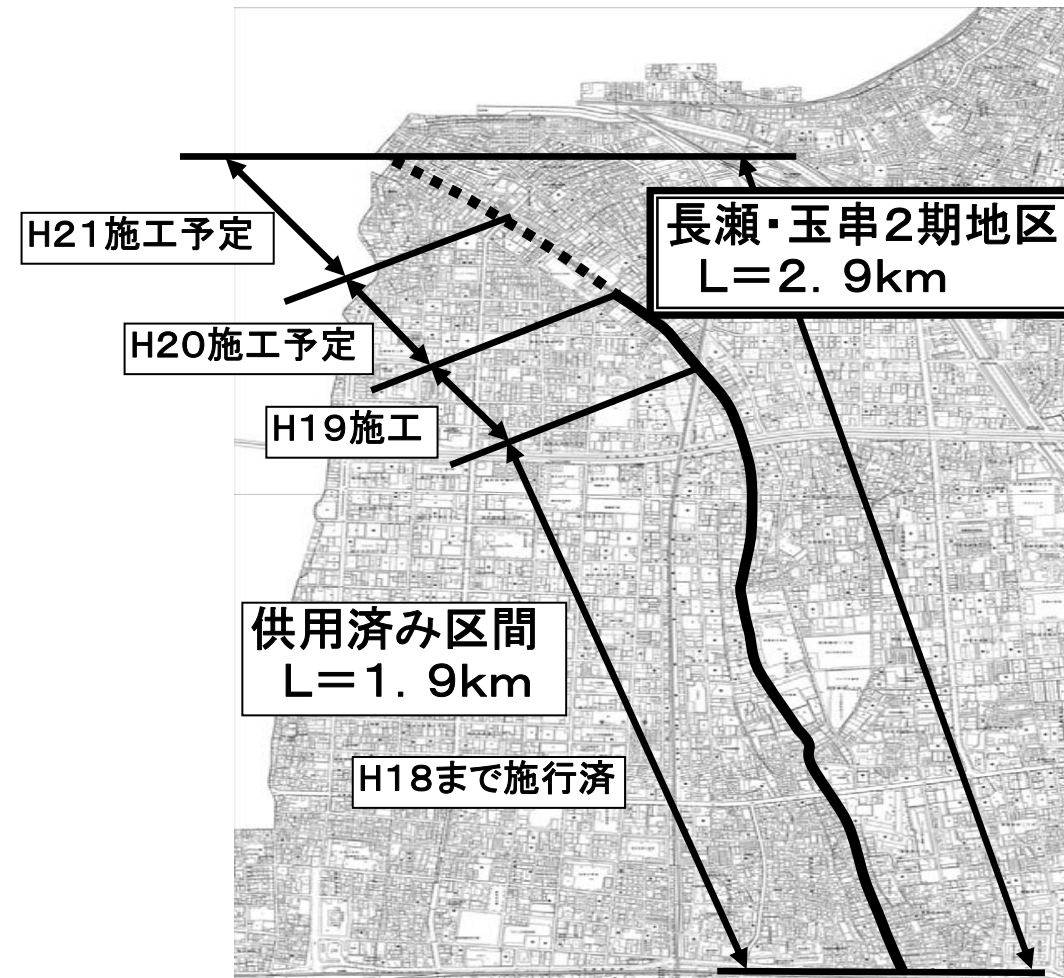
		計画時の想定		現時点での状況（変更点）	分析
			備 考		
事業効果の定量的分析	費用便益分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 1 . 5 1</li> <li>便益総額</li> <li>B = 8 6 . 8 億円</li> <li>総費用</li> <li>C = 5 7 . 6 億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な便益内容</li> <li>災害防止効果</li> <li>水辺環境整備効果</li> <li>・ 受益者</li> <li>受益農家、地域住民</li> <li>・ 費用便益算定の根拠</li> <li>「解説土地改良の経済効果」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 1 . 5 8</li> <li>便益総額</li> <li>B = 8 7 . 9 億円</li> <li>総費用</li> <li>C = 5 5 . 7 億円</li> </ul>	<p>長瀬川 1 期地区を含む。</p> <p>便益総額の増は時点修正による。</p> <p>総費用の減は長瀬川 1 期・2 期地区の事業費減による。</p>
	その他の指標（代替指標）			<p>環境便益の評価（仮想評価法（CVM）による）</p> <p>6 1 , 5 2 6 千円 / 年</p> <p>( B / C = 1 . 7 6 )</p>	<p>仮想評価法は長瀬川 2 期地区でのみ実施しているため、1 期地区を含めるとさらに効果が出るものと思われる。</p>
事業効果の定性的分析	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改修により水路の安全性が向上し、護岸崩壊などによる溢水等の被害を未然に防止することができ、安全な生活環境が形成される。</li> </ul>	<p>受益者</p> <p>農家、地域住民</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初計画どおり</li> </ul>	
	活力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用排水の完全分離により、農業用水が確保され、地域農業の振興に寄与する。</li> </ul>	<p>受益者</p> <p>農家、府民</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初計画どおり</li> </ul>	
	快適性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近で快適な水辺環境の創出により、良好な生活環境が形成される。</li> </ul>	<p>受益者</p> <p>地域住民</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初計画どおり</li> </ul>	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魚などの水棲生物や水生植物等生き物の生息場所が確保できる</li> </ul>	<p>受益者</p> <p>地域住民、府民</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初計画どおり</li> </ul>	
自然環境等への影響と対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現況水路はコンクリート 3 面張であり、自然環境としては劣るため、植栽帯・水生植物帯の設置や、低水位時に魚類等の生息環境を保護する魚だまり、魚巢ブロックの設置等による自然環境の復元を図る。</li> <li>・ 用排水の完全分離により、地域環境の改善を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初計画どおり</li> </ul>	
その他特記すべき事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業の実施に当たっては、地域連携を重視しており、地元自治会や近隣小学校、PTAなどで構成する「長瀬川下流域住民懇談会」において、事業計画段階、実施設計段階、工事施工段階などで協議を繰り返し、地域住民の意見を極力取り入れながら事業を実施している。また、花壇作りや植栽の植樹など、一部の工種は地域住民の手づくりで行った。これらの取り組みの結果、清掃活動や植栽管理などの維持管理の一部について、地域住民の協力を得ることができることとなった。</li> <li>・ 長瀬川に隣接する道路は、通学路や地域住民の生活道路として利用されているが、狭隘であり、歩行者と車両が混在して危険な状況である。本事業で整備した管理用通路を一般開放することにより、歩車の分離が図られ、地域の安全性の向上にも貢献する。</li> </ul>			



事業箇所図



平面図



標準断面図

